

聖書：出エジプト記 40 章 1～17 節

1 第一の月の一日

あけましておめでとうございます。

多くの人々が、今年も北海道神宮に初詣に出かけております。普段は神さまのことなどあまり意識していない人々も、年に一度は神さまを思い出し、でかけようとしています。では、私たちはどうでしょう。年の始まりに神をどのように意識するのでしょうか。それが1, 2 節にあります。「主はモーセに告げて仰せられた。「第一の月の一日に、あなたは会見の天幕である幕屋を建てなければならない。」このあと、幕屋とそこに置くべきものについての詳細や、幕屋のなかで働く祭司たちのことについての細々とした指示が書かれています。これを読むと、新年の始まりと幕屋を建てることとが密接につながっていることがわかります。新年は、単なる暦の上の話ではなく、霊的に何らかの大切な意味がありそうです。そのことを考えていくのですが、そもそも幕屋とは何か。

2 幕屋を建てる

幕屋のことを少し見ます。主がモーセに幕屋を建てるように指示したことは、出エジプト記の 25 章に最初に出て来ます。そこには非常に詳しい幕屋の設計図と建築手順が書かれています。文字だけ読んで、イメージがつかめませんので、礼拝プログラムの右側に、幕屋を上から見た図面も載せておきました。

幕屋がどうしてこのような構造をしているのか、また幕屋の中にはいろいろな物が置かれているのですが、その一つ一つにどんな

意味があるのか、不思議なことですが出エジプト記には一つの例外を除いてほとんど説明がありません。例外というのは 25 章 8 節。

「彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼の中に住む。」細かな意味はともかく、とにかく幕屋は神が御臨在する場所であることはわかります。

その幕屋の中は、二つに区切られ入り口に近い方が「聖所」と呼ばれ、入り口から奥の方にあるのが「至聖所」と呼ばれます。その二つの部屋を区切っているのが「仕切りの垂れ幕」とよばれるものです。祭司が至聖所には入れるのは年に一度だけで、入るときは必ず動物の血を携えなければなりません。動物の血は、祭司の罪と民たちの罪のためにささげられます。そして至聖所には契約の箱が置かれ、その箱の中には律法が刻まれた二枚の石の板が入っています。いずれにしても、全体は木や石で造られたしっかりしたのではなく、現代風に言えば仮設テントのようなものです。イスラエルの民たちが荒野を旅するとき、幕屋は人々に肩にかつかれ移動します。民たちが一つの場所にとどまるときは、地面に柱を打ち込み、天幕が広げられ、そこに幕屋が建てられます。アロンとその子どもたちが祭司として聖所で働きました。

3 幕屋の意味

幕屋の意味については、モーセの時代の人々には詳しく教えられないままでした。しかし、新約の時代になりヘブル書の中で初めてその意味が明らかにされました。すべてのことに触れることはできませんので、最も大

切な事だけをお話しします。ヘブル書 9 章 25, 26 節を読みます。「年ごとに自分の血でない血を携えて聖所に入る大祭司とは違って、キリストは、ご自分を幾度もささげることにはなさいません。もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。」

旧約聖書を読むだけなら、どうして幕屋がこのような構造になっているのかわかりませんでした。これでわかります。幕屋は、キリストご自身をかたどっているということが出来ます。ヘブル書では、「模型」と言っておりますが、キリストがして下さることを目に見えるように形に表したものが幕屋である。そのように言うことが出来ます。

4 新年の初めに幕屋を建てる

出エジプト記に戻ります。主はモーセに告げました。「第一の月の一日に、あなたは会見の天幕である幕屋を建てなければならない。」

主は、新年の最初の日にはキリストの模型である幕屋を建てることにこだわります。新しい年は、去年の続きではないのです。今日の日、昨日の続きでもないのです。やっぱり、新しい年の初めにもう一度幕屋を建て、新しい出発を確認しなさいと言われてます。

いったい、どうやって建てるのでしょうか。もちろんモーセが建てた幕屋はもう私たちには必要はありません。キリストが本物の幕屋になって下さいました。そうしますと、私たちがなお幕屋を建てるということはどうすることなのでしょう。

私たちは、この一年も罪に満ちた地上を旅していくこととなります。例えて言えば、ど素人が太平洋に小舟を漕ぎ出してアメリカ西海岸を目指すようなものでしょう。そんなこと皆さんできますか。「できない」と答えるでしょう。それが普通です。でも多くの人々は、できるもできないもない、やるしかない、と言って一生懸命がんばり、そして船が沈みかけてひどい目に遭っています。

モーセの時代、四十年の荒野の旅はどうであったか。ひとりぼっちで旅をしなさいと言われたのではない。幕屋を建てることで神の御臨在を実感しました。動物の血を携えながら幕屋に入ることで、罪の贖いを体験しました。彼らはそのようにして四十年間の試練を生き延びました。

私たちも同じです。イエス・キリストが私たちのそばにいて下さいます。この方は、どんな嵐の時にも適切に私たちを導いて下さる。たとえ船がひっくり返り、海に放り出されたとしても、この方がご自分のいのちを投げ捨てて、私たちを救い出してください。そのような方といっしょに、船を漕ぎ出していきます。

主は救い主ですと告白をする者とともにイエス・キリストはおられます。新年の初めに、もう一度そのことを確認して新しい年に船出をしたいと思います。